

# メトロポリタン史学会

## 第十二回総会・大会のお知らせ

下記の要領でメトロポリタン史学会の第12回総会・大会を開催します。大会では「近世・近代における都市と開発」をテーマにシンポジウムを行います。会員の皆さんの参加をお待ちしております。

### 〔趣旨〕

近年の環境史の展開の中で、近世・近代における都市と周辺領域の関係を考察することはひとつの重要なテーマであろう。とりわけ都市による開発政策と周辺の自然資源のあり方、都市と自然のかかわりが、近世以降の社会においてどのように変化したのかを考えることは、比較史としても興味深い問題となるとおもわれる（参照：斎藤修『環境の経済史—森林・市場・国家』岩波書店、2014年）。そこで、都市の開発政策と周辺の森林や河川・運河などの関係の変化などを論じていただければと考えている。日本史、東洋史、西洋史、考古学からお一人ずつの報告者を予定している。

- 日時 2016年4月23日（土）午前10時30分～午後6時  
 会場 首都大学東京 本部棟1階・大会議室  
 （京王相模原線南大沢駅下車 徒歩約10分）  
 日程 ①総会：午前10時30分～12時  
 ②大会：午後1時～6時

### シンポジウム「近世・近代における都市と開発——環境史の視点から」

趣旨説明（河原温氏）

研究報告

〔報告者〕

渡邊裕一氏（日本学術振興会 PD）

「アルプス山脈・レヒ川流域における都市の森林・河川利用  
 ——16世紀アウクスブルクの史料から——」

上田信氏（立教大学）

「風水都市・北京」

後藤雅知氏（立教大学）

「近世房総の山間地域における林産物生産」

山田昌久氏（首都大学東京）

「近世都市江戸の木材事情変化について」

全体討論：午後4時～6時

司会 河原温氏・森田喜久男氏  
コメント 吉田伸之氏・渡辺健哉氏・徳橋曜氏  
懇親会：午後6時30分～8時30分

## メトロポリタン史学会第3回若手研究者の集い報告

2015年11月21日（土）、首都大学東京 5号館1階134号室において第3回若手研究者の集いが開催されました。参加者は15名でした。

研究報告と書評との題目は以下のとおりです。

土屋健俊氏（首都大学東京 大学院 後期博士課程）

「戦国大名北条氏代替わり検地の再検討」

加賀沙亜羅氏（首都大学東京 大学院 後期博士課程）

「13世紀ライン都市における政治コミュニケーション」

尾田識好氏（公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

「書評 山岡拓也著『後期旧石器時代前半期石器群の研究—南関東武蔵野台地からの展望—』六一書房、2012年」

宮田伊知郎氏（埼玉大学 人文社会科学部研究科）

「書評 中野隆生編『二十世紀の都市と住宅—ヨーロッパと日本—』山川出版社、2015年」

研究報告ではフロアから専門的な質問が投げかけられてより議論が深まり、書評では対象書籍の著者も交え、熱気を帯びた議論が展開されました。研究報告については要旨が、書評については当日の報告を活字化した内容が、それぞれ先日刊行された『メトロポリタン史学』第11号に掲載されておりますので、是非ご吟味下さい。



〔当日の様子〕

2015年10月4日（日）、第8回歴史探訪「江戸東京たてもの園見学会」を開催しました。

本会会員の吉田和彦氏より参加記をご寄稿いただきました。

お忙しい中、ご執筆下さった吉田氏に御礼申し上げます。

### 第8回歴史探訪参加記 江戸東京たてもの園見学会

吉田和彦（東京外国語大学大学院生）

東京都立小金井公園内の江戸東京たてもの園の見学が、松井かおる学芸員の解説・案内により行われました。開園は、1993年で旧武蔵野郷土館の資料を引き継いでいます。私は、武蔵野郷土館時代に両親に連れら

れて数回、来たことがあります。小学生の時なので記憶は曖昧ですがその後の変化に興味があり参加させていただきました。

屋内展示では、同園の「ルーツ」について企画展のパンフレットや「武蔵野郷土館について」というレジュメをいただき松井先生にわかりやすく解説していただきました。それによると有栖川宮記念公園に1934年に開設された東京郷土陳列館が嚆矢の由。戦後は、武蔵野博物館（井の頭自然文化園1948～）→武蔵野郷土館（小金井公園1953～）→江戸東京たてもの園と変遷して現在に至っているという事でした。専門家ならではの講師の解説に初めて知ることが多く勉強になりました。戦前に鳥居龍蔵が創立した武蔵野会の後身の武蔵野文化協会が運営に関わりアマチュアの考古学者塩野半十郎の考古コレクションを基に戦前の「縄文三羽鴉」の一人、甲野勇や日本考古学研究所から移動した吉田格により武蔵野郷土館の基礎が築かれたとのことでした。

屋外展示は、主に移築された建物の野外展示でした。多数の建物を精力的に廻ったのでいくつか印象の強かった建築について若干の感想を順不同で述べてみます。①高橋是清邸、二階が二・二六事件で高橋が最期を遂げた部屋であり実際に階段を上りこの部屋を見ると感慨深いものがありました。本物の建物をもつ実物展示の迫力が想像力を掻き立て大学の授業とはまた異なる「教材」で日本近代史の知識があればあるほど建築への観察力があればあるほど楽しめるなと思いました。②三井八郎右衛門邸、各地にあった三井家の別荘を戦後に一つにまとめて移築したとのこと。応接間が格天井の和風であったり、二階の夫婦各々の寝室の向井が贅を尽くした「仏間」となっているなど三井家の特色の一部を家屋の空間配置が表していると思いました。③武居三省堂文具店、神田須田町に1927年に建てられた看板建築の建物。筆を入れる「筆筒」が今では珍しい。宮崎駿アニメ「千と千尋の神隠し」のモデルのひとつということであった。④前川國男邸、建築家前川國男の自邸、1942年に品川区上大崎に建てられた外観と内装ともに美しく機能的な建物。太平洋戦争下の「日本の勢い」の良いころとはいえこんな建物をたててご近所はどうおもったかなどと余計な心配をしてしまいました。

7ヘクタールという広大な敷地に移築した30軒の商家、農家、風呂屋、居酒屋ほかがあり松井さんの効率的な案内とエピソードを交えた巧みな話術であっという間の3時間半でした。それでも参加メンバーの中ではどちらかというと若い方の私は、日ごろの運動不足が祟って最後は疲れ気味になりました。武蔵小金井での懇親会での松井さんを囲んだ洗練された会話と食事でようやく一息つきました。観客に問いかける資料と学芸員の専門的で分かりやすい説明が来訪する市民に多様な歴史認識を提供することのよくわかる見学会でした。会員ではあるものの都立大で学んだことのないいわば部外者の私にも広く門戸を開いてくださり心地よい学びの場に参加することが出来ました。木村誠会長をはじめ有意義な見学会を企画運営していただいたメトロポリタン史学会の皆様へ感謝いたします。

### 【投稿のお願い】

本会では、会員の皆様の積極的なご寄稿をお待ちしています。広く、歴史研究・教育の諸領域にかかわる内容のものを求めます。

### 『メトロポリタン史学』(The Metropolitan Shigaku) 投稿規定

- (1) 本誌は、年一回12月に発行するものとし、原稿の締切は、毎年8月末日とする。
- (2) 投稿資格は、原則として会員に限る。ただし、編集委員会からの依頼原稿に関してはこの限りではない。

- (3) 投稿言語は、日本語または英語とする。
- (4) 投稿原稿は、歴史学・考古学、歴史教育の分野に関する以下の種目のものとする。
- ①論文（図表を含み、24,000字以内；英文の場合は、8,000語以内）
  - ②研究ノート・史料紹介（同 12,000字以内；英文の場合は4,000語以内）
  - ③学界動向（8,000字以内；英文の場合は2,700語以内）
  - ④時評・提言（4,000字以内）
  - ⑤書評（4,000～8,000字）
- (5) 論文、研究ノート（縦書き、横書きいずれも可）には、欧文で要旨（300語以内）を添付する（原文が英文の場合は日本語要旨800字以内）。また目次用の英文タイトルを付記する。
- (6) 原稿は、編集委員会が採否を決定する。その際、論文、研究ノートについては、編集委員会および編集委員会が委嘱した査読者の審査を経る。
- (7) 著者校正は、初校のみとし、校正時における文章の大幅な変更は認めない。
- (8) 注は、末尾にまとめる。
- (9) 原稿は原則として、印字された原稿（表、図表を含む）3部、USBメモリなどの記憶媒体及び別記送り状\*（1部）を提出する。
- (10) 掲載の論文、研究ノート・史料紹介、学界動向については、別刷り50部を進呈する。
- (11) 原稿の送り先、照会については、

〒192-0397 八王子市南大沢1-1 首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系  
国際文化コース（歴史・考古学分野）、河原 研究室気付  
『メトロポリタン史学』編集委員会  
Tel: 0426-77-2119（河原研究室） Fax: 0426-77-2112  
E-mail: kawara28@tmu.ac.jp（河原温研究室内） SNC47077@nifty.com（河原温）

\* 送り状は学会ホームページ（<http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>）からダウンロードしたものをコピーするか、事務局にお問い合わせください。

### 【事務局からのお願い】

●メトロポリタン史学会会報第19号をお届けします。第12回総会・大会のご案内を申し上げます。奮ってご参加ください。引き続き会財政健全化のため、年会費を年度内にお支払い下さいますようお願いいたします。一般5,000円、学生・院生3,000円です。

メトロポリタン史学会（会長 木村誠）

〒192-0397

東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 国際文化コース 歴史・考古学分野内

TEL: 0426-77-2110（赤羽目匡由研究室） E-mail: mshigaku@tmu.ac.jp

ホームページ: <http://www.geocities.jp/metropolitanshigaku/>

郵便振替: 00100-0-537287 メトロポリタン史学会